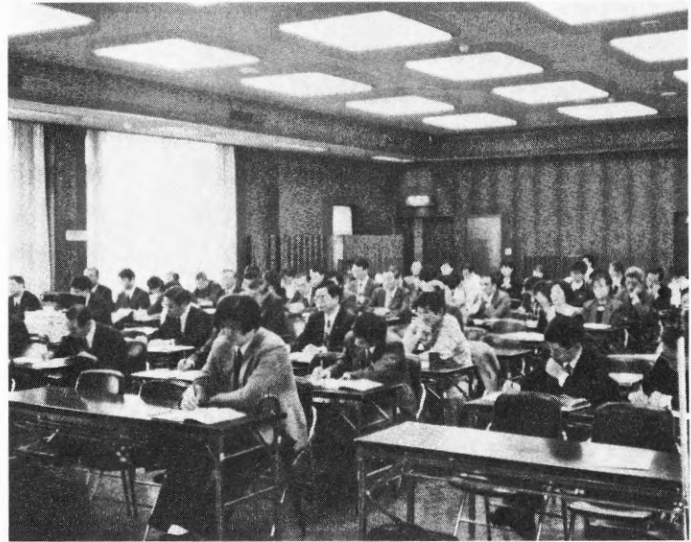


全史料協研修会を終えて

平成2年11月20日、全史料協主催で初めて研修会が開催されました。このような研修会は、ご存じの様に国立史料館主催の「史料管理学研修会」と国立公文書館主催の「公文書館等職員研修会」がありますが、全史料協としても独自の研修会として開催しました。

この研修会の開催については、会員の方々にアンケートを実施したところ、会員の皆様から様々な意見や要望が寄せられました。アンケートを踏まえて検討した結果、全国大会の前日に研修会を開催することになりました。



今年の研修会は、次のような研修内容・講師で行われました。

Aコース(総合基礎コース)

「文書館の設立に向けて」

高野 修氏(藤沢市文書館)

「文書館の建物と設備」

北川 健氏(山口県文書館)

「文書館の業務」

鈴江英一氏(北海道立文書館)

Bコース(分野別コース)

「保存の考え方 その理念と実践」

坂本 勇氏(東京修復保存センター
五日市アトリエ)

「保存環境の管理」

稲葉政満氏(東京芸術大学)

「文書館のリスク・マネジメントー災害対策」

小川雄二郎氏(都市防災研究所)

それぞれのコースは、午前10時30分から午後5時までみっちり行われました。ただ、第4時限目は、質疑応答あるいは討議の時間に当てましたが、参加者は最後まで熱心に受講されました。

研修担当としては、今回の初めての研修会にどの位の会員が参加するのか、また、研修内容がどの程度様々な会員のニーズを満たすか不安と期待が入り交じっていました。しかし、予想に反して、参加者は多く、Aコースが97名、Bコースが74名でした。研修会だけの参加者が34名いましたので、大会参加者で研修会参加の比率は67.1%になりました。

今後の研修会については、今回の研修会の反省や参加者から頂いたアンケート結果を踏まえて検討していきたいと思っています。会員皆様の忌憚のないご意見等をお待ちしています。

最後になりますが、研修会の開催にあたって、講師の皆様には感謝で一杯です。Aコースの講師は、長年文書館業務に関わっているベテランの方々ばかりです。“ミスター文書館”達といっても決して過言でないと思います。Bコースの講師は、「保存」、「災害」の専門家です。大変多忙のところ研修会の趣旨を理解されて来て頂きました。

また、研修会の運営・会場の件で千葉県文書館の皆様には、大変行き届いたお世話をして頂きました。深く感謝する次第です。

(東京都公文書館・水口政次)